

↓ 当案内および過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

● [14201] 便中カルプロテクチン《LA法》

※ [27104] 便中カルプロテクチンは2027年3月31日(水) 受付分をもって検査受託を中止させていただきます。

受託開始日

● 2027年1月4日(月)



便中カルプロテクチン《LA法》

カルプロテクチンは、好中球の細胞質に存在するカルシウム・亜鉛結合タンパク質です。炎症性腸疾患 (IBD) では、好中球の腸管腔への移行を反映して糞便中のカルプロテクチン濃度が上昇することが知られており、その濃度を測定することで腸管炎症の活動性を把握することが可能です。

持続する下痢や腹痛などの消化器症状を呈する患者では、潰瘍性大腸炎 (UC) およびクローン病 (CD) を含む炎症性腸疾患 (IBD) と、過敏性腸症候群 (IBS) をはじめとする機能性腸疾患との鑑別が重要です。また、IBD では病勢評価のために腸管炎症の状態を把握する必要があります。本検査は、便検体のみで非侵襲的に腸管炎症の有無や活動性を評価でき、IBD の診断補助および病勢モニタリングに有用です。

本検査はLA法 (ラテックス凝集比濁法) による測定法を採用しており、FEIA法との相関も良好です。また、広く用いられている便中ヘモグロビン検査と同一形状の採取容器を使用するため、簡便な検体採取が可能です。

検査要項

新規受託開始項目		現行項目 (参考情報)
項目コード	14201	27104
検査項目名	便中カルプロテクチン《LA法》	便中カルプロテクチン
検 体 量	糞便 [容器番号: 11] *1, 2	糞便 1g [容器番号: 33]
保 存 方 法	冷蔵	凍結
検 査 方 法	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	FEIA法
単 位	μg/g	mg/kg
基 準 値	炎症性腸疾患の診断補助: 50 以下 潰瘍性大腸炎の病態把握の補助: 300 以下 クローン病の病態把握の補助: 80 以下	同左
報 告 下 限	20 未満	4.0 未満
報 告 上 限	68,000 以上	600,000 以上
報 告 桁 数	整数	小数1位、有効3桁
所 要 日 数	2~3日	3~6日
検査実施料	268点 ([D003] 糞便検査 [9] カルプロテクチン (糞便))	同左
判 断 料	34点 (尿・糞便等検査判断料)	同左
備 考	*1: 検体は必ず [容器番号: 11] に採取し、紫色の提出用袋に入れてご提出ください。 *2: [容器番号: 11] は、便中ヘモグロビン検査を含む他の検査との同時依頼はできません。単独検体でご依頼ください。便中ヘモグロビン採便管 [容器番号: 31] で採取した検体は受託できません。	—

【容器番号: 11 便中カルプロテクチン採便管】



採取量	約0.5g
添加剤	HEPES、NaN ₃ (0.095w/v%)、NaOH (0.040w/v%)、NaCl
保管方法	常温
有効期間	容器および外袋表示
主な検査項目	便中カルプロテクチン《LA法》

- 糞便の採取方法は提出用袋内の説明書をご参照ください。
- 糞便を採取した採便管は、必ず紫色の提出用袋に入れてご提出ください。

参考文献

山本彩夏, 他: 医療と検査機器・試薬 43 (6): 593-598, 2020.